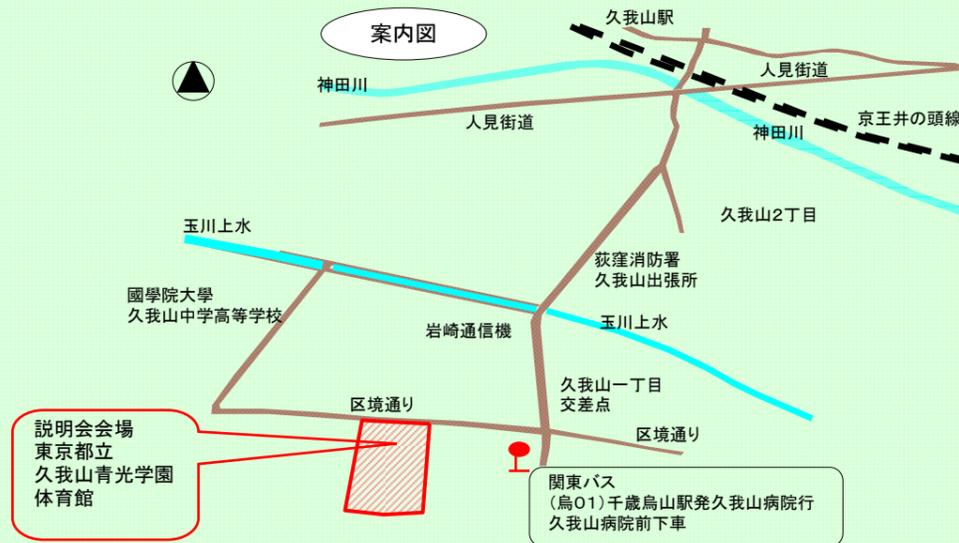


道路構造についての説明会のご案内

日時:平成23年9月25日(日曜日) 14:00~16:00
平成23年9月26日(月曜日) 18:00~20:00
場所:世田谷区北烏山四丁目37番1号
東京都立 久我山青光学園 体育館
交通:京王井の頭線久我山駅より徒歩約7分
千歳烏山駅より関東バス久我山病院行 久我山病院前下車徒歩約2分
※両日とも説明内容は同じです。
説明会会場には、駐車場、駐輪場がございませんので徒歩にてご来場下さい。



環境施設帯整備について

○環境施設帯については、今後沿道の方々と話し合いをしながら、整備方針を決めていきます。

工事の予定について

○平成23年度には、搬入路(機械や材料を運ぶための通路)を作る工事に着手する予定です。工事内容については、今後、説明会を開催し、ご説明します。
○搬入路工事後は、排水管の設置や供給管(電気、通信、ガス、水道等)の設置工事を順次行います。なお、玉川上水、希少植物、岩通ガーデン等沿道環境に十分配慮しながら工事を進めます。

問合せ先
第三建設事務所 工事第一課
環境対策担当係
Tel 03-3387-5347

【発行】

東京都第三建設事務所 工事第一課
東京都中野区中野4-8-1 中野区総合庁舎2階

第三建設事務所のHP
<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/sanken/index.html>

東京都市計画道路幹線街路放射第5号線

第6号

三建・放5ニュース

VOL.6 2011.9
【発行】
東京都第三建設事務所
〒164-0001
中野区中野4-8-1-2F
Tel.03-3387-5347

岩崎橋付近の道路構造については、平成19年に「放射第5号線事業推進のための検討協議会」から提言を受け、これまでに、様々な検討や調査を行ってきました。その結果、平面で整備することとしました。

道路構造の決定に至るまでの検討経過や内容についてお知らせします。また、この検討経過や内容について、説明会を開催します。(詳しくは4頁をご覧ください。)

これまでの経緯と検討内容

○放射第5号線は、「平面」で都市計画決定し事業認可を取得していますが、平成19年に地域の関係者を委員とした「放射第5号線事業推進のための検討協議会」から、整備にあたっては、放5を岩通りと立体交差させる「一部トンネル案」を基本的な道路構造とし、留意事項に十分配慮して事業を実施することが提言されています。この提言を受け以下の項目について検討及び意向調査を行いました。

【協議会における留意事項】

- 検討1. トンネル等の構造物を構築することによる史跡などへの影響
調査1. 掘割部やトンネル部の土地の有効利用に影響を及ぼすことへの沿道関係者の理解
調査2. トンネル坑口部の周辺で排気ガスが増加することへの沿道関係者の理解

【検討・調査結果】

- 検討1. トンネル施工時の掘削により史跡への影響が生じる可能性は小さい。
調査1. 約半数の方々が、一部トンネル案を評価できるとの回答でした。
調査2. 一部トンネル案を評価できる・評価できないが、ほぼ同数でした。

【構造決定にあたり考慮した項目】

- 項目1. 経済性
項目2. 防災性
項目3. 既存樹木の保全

【結果】

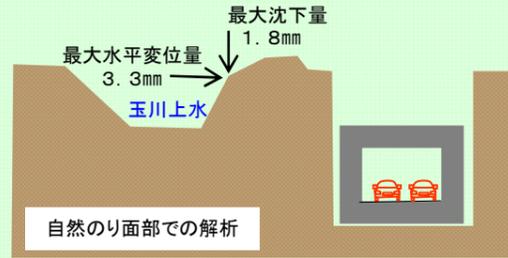
- 項目1. トンネルは、平面と比較して、約35億円建設費が増加します。
項目2. トンネルの場合、緊急輸送道路としての重要な機能を十分に果たせない可能性があります。
項目3. トンネルは、平面と比較して、既存樹木の移植本数が多くなります。

詳しくは、中面(2頁、3頁)をご覧ください。

この留意事項の検討・調査結果と構造決定にあたり考慮した項目を総合的に判断し、平面で整備することを決定しました。

検討1: 玉川上水のり面への影響検討

〇都では、トンネル等の築造のため、地盤の掘削による玉川上水のり面への影響を検討してきました。この結果を、各分野の専門家を入れた「放射第5号線 玉川上水への影響検討委員会」に諮り、玉川上水のり面への影響について検討しました。



- 1)開催時期 : 平成23年6月(第一回)
平成23年7月(第二回)
- 2)委員 : 学識経験者、行政関係(都・区)

委員会での結論: 地盤の掘削により問題となるような影響が生じる可能性は小さい。

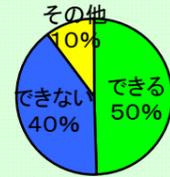
調査1, 2: 沿道関係者の理解

〇一部トンネル案の趣旨及び留意事項に関する説明を行いながら、意向調査を実施しました。

- 1)調査期間 : 平成23年 1月 ~ 2月
- 2)調査件数 : 281名
- 3)回答数 : 166名

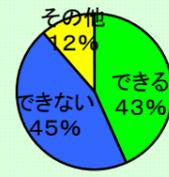
(調査1)
掘削部やトンネル部の土地の有効利用に影響を及ぼすことを踏まえたうえで、一部トンネル案を評価できますか。

できる.....82名
できない.....67名
その他.....17名

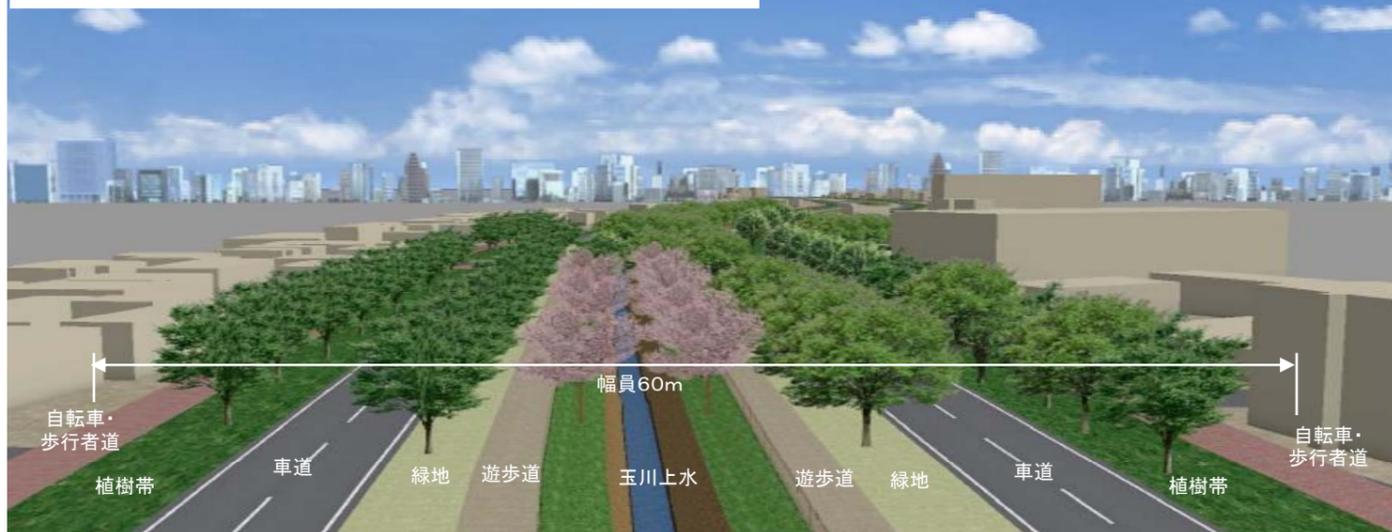


(調査2)
トンネル坑口部周辺における排気ガスの予測を踏まえたうえで一部トンネル案を評価できますか。

できる.....72名
できない.....75名
その他.....19名



平面整備イメージ(岩通ガーデン付近から都心方向を望む)



項目1: 経済性

トンネルで整備.....約65億円 } 建設費が約35億円増加します。
平面で整備.....約30億円

トンネル構造は、年間の維持管理費が約300万円必要となります。

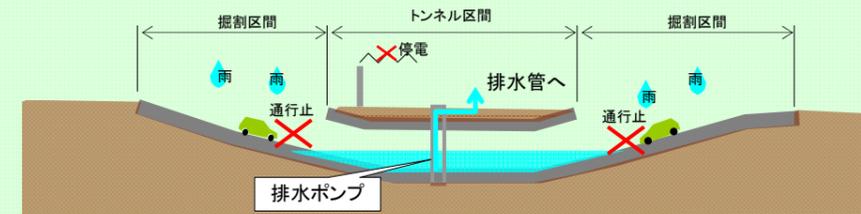
項目2: 防災性

トンネル構造とした場合、道路に降って集まった雨を地下から汲み上げる排水ポンプという機械が必要となります。

通常は電気で稼働させますが、停電時には軽油を燃料とする発電機により稼働することになっています。

しかし、災害時において停電や燃料不足が生じた場合、排水ポンプが稼働不能となることが予想されます。排水ポンプが稼働しなければ、雨水が溜り道路が冠水するため、道路を通行止めにしなくてはなりません。

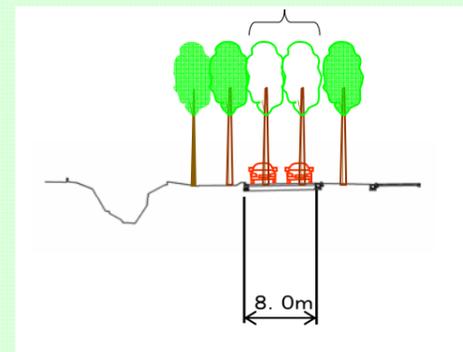
道路が通行できなくなることにより、災害時の緊急輸送道路としての重要な機能を十分に果たせない可能性があります。



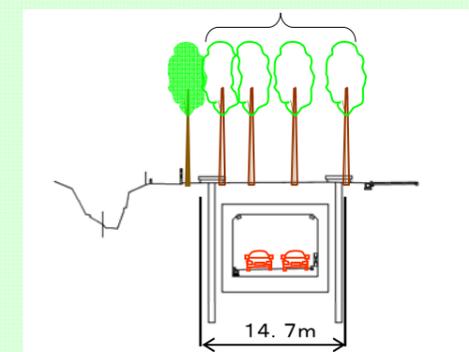
項目3: 既存樹木の保全

既存樹木をなるべく残すため、車道施工時における影響本数を確認しました。

平面施工時.....約50本
移植対象となる樹木が少ない



トンネル施工時.....約100本
移植対象となる樹木が多い



※歩道部分は、両案とも支障する本数が同一であるため、対象外としています。